

やらなかった選択の価値

評論家の鴻上尚史さんは、「言わずに済ませた一言には勇気がある」と語っています。

人生を振り返るとき、私たちはつい「何を成し遂げたか」に目を向けがちですが、「あえてしなかったこと」にも大切な意味があるというのです。

例えば、感情に任せて強い言葉を投げなかった、誰かを責める場に加わらなかった、相手を見下す態度を取らなかった。

気づきながら踏み込まなかった判断は、自分の中の一線を守った証と言えるでしょう。

人を傷つける行為や場を荒らす振る舞いを避けるには、相応の覚悟が必要です。目立つ成果にはならなくても、「これはしない」と決めたことを守れたなら、その一日は十分に意味があります。

何かを始めた瞬間だけでなく、抑えた選択にも価値があるのです。ときには、自分の「出発点」を静かに誇ってみてはいかがでしょうか。

今日の言霊：やらぬ勇気も力になる

私たちはつい、「何をしたか」「どんな成果を出したか」で自分を測りがちです。しかし、振り返ってみると、あえて選ばなかった行動が人生を守っていることも少なくありません。

怒りに任せた発言を控えた、誰かを下げる話題に乗らなかった、損得より良心を優先した。そうした判断は、表に出ることはなくても、内側では確かな軸を育てています。

人としての価値は、派手な行動だけで決まるものではありません。自分の中で「ここだけは越えない」と決めた線を守れたなら、それだけで十分に意味があります。誰にも褒められなくても、自分自身が認めてあげることが大切です。人生を長く支えるのは、実はこうした静かな選択なのかもしれません。



【今回の学び】⇒負の行動を押さえた経験は、人生の土台となる！